

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回 建築系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	令和3年11月26日(金) 15時00分～17時00分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階テラホール、11階1101教室	
参 加 者	外部委員：4名	内部委員・学内関係者：4名
	＜外部委員：4名＞ (順不同・敬称略、役員は委員名簿参照) 稲村健一 (株式会社稲村デザイン建築研究所) 荻野敦 (清水建設株式会社) 佐藤剛 (一級建築士事務所 A-SA 工房) 山本治 (西松建設株式会社) ＜内部委員：4名＞ 杉本安雄 (専門学校 東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科) 科长) 山下光成 (同 建築監督科教員、書記)	
会 議 録	＜第一部 全体会＞ 15:00～15:30 地下1階テラホール 1. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井雅哲 2. 委員のご紹介 3. 2021(令和3)年度事業報告 ① 募集活動に関する報告 ② 教育・就職活動に関する報告 ③ 授業の問題発見・改善手法の開発に関する報告 ④ 学習成果の見える化に関する報告 ⑤ DX社会をわくわくさせる学校づくりに関する報告 ⑥ リアルジョブプロジェクトに関する報告 ⑦ 学生支援・リカレント教育等に関する報告 ⑧ その他、学習成果等に関する報告 ＜第二部 系別分科会＞ 15:40～17:00 11階1101教室 1. 議長挨拶(野上) 2. 前回議事録の確認(山下) 3. 意見交換 「SDGs」という言葉を耳にする機会が増え、環境に対する意識が年々高まる中、設計事務所やゼネコン各社の取り組みの現状や実務で行政等から求められている内容を踏まえて環境教育に関する考え方や方針について議論していきたい。(野上) 建築物省エネ法改正に伴い、床面積300m²未満の小規模住宅について行う新築及び増改築については、建築士から建築主に対して建物の省エネ性能を説明させる説明義務制度が2021年4月に導入され、実務においても環境に対する配慮が重要になってきていると感じている。(佐藤委員) 国内にある既存建築物を「住宅」と「非住宅」の2つに分けた場合、「住宅」の割合が圧倒的に高いことから、省エネ住宅に関する考え方や法制度の概要、特に原理原則について学生時代に学ぶことは大変重要だと思う。(稲村委員)	

会 議 録	環境社会検定試験（エコ検定）を受験させることで、持続可能な社会と建築の接点を見出すためのヒントを得ることができるのではないかと。（山本委員） 建築監督科では、1年生の1期にエコ検定のテキストを用いて「環境リテラー」という授業を実施しているが、他の科目との関連性を持たせることができていない。（杉本） 設計コンペは時代背景や近年のトレンドを踏まえた設計課題となっている場合が多い。設計を通して学生が自発的に環境問題を考えるきっかけになるものと思われる。（鈴木） RJPの授業であれば設計コンペに向けた活動が可能である。（野上） 2年課程の学生が設計コンペに応募するには知識及び技能がともに未習熟であるため、導入時期の検討を慎重に行うべきである。（佐藤委員） 作り手側は意図しない部分でエンドユーザー側の要求を見落としてしまうところがあるので、建物に求められる居住性や快適性等の本質部分についても学生に意識させて欲しい。（荻野委員） ゼネコン若手社員に対する環境教育の主軸は、建設副産物や産業廃棄物に関する内容となっているのが現状である。（山本委員） CO2の発生量は建設段階よりも建物の運用・維持管理の段階の方が圧倒的に高いことから、点検・保守・修理・修繕・更新、改修工事の内容についてもカリキュラムに落とし込み、今後の授業に取り入れていく必要があるのではないかと。（山下） 建築科夜間課程では、「国土交通省白書」を教材として活用することで、我が国に生じている変化や課題を学生達に把握させるとともに、国土交通行政の各分野における最新動向について学習する機会を設けている。（鈴木） 4. 配布資料 ・ 建築系カリキュラムについて（A4×1） ・ 国土交通省住宅局『ご注文は省エネ住宅ですか？』説明義務制度の紹介（A4 冊子） ・ 省エネ性能説明義務制度についてのリーフレット（A4×2） ・ 省エネ基準への適合性に関する説明書の参考様式（A4×1） ・ 企業ニーズ調査のためのキーワード抽出シート（A3×1、A4×1）
--------------	---